

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																							
専門学校 中央医療健康大学校		平成21年3月25日	鈴木啓之	〒422-8006 静岡県静岡市駿河区曲金6-7-15 (電話) 054-202-8700																							
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人鈴木学園		昭和43年11月9日	理事長 鈴木啓之	〒411-0036 静岡県三島市一番町15-35 (電話) 055-971-1833																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	スポーツ柔整学科(午前部)		平成6年文部科学省 告示第84号	-																						
学科の目的	教育基本法(昭和22年法律第25号)の精神に則り、学校教育法(昭和22年法律第26号)に従い、次に掲げる事項を行うとともに、教養の向上と人格の陶冶を図るため組織的な教育を行う。 (1)柔道整復師法(昭和45年4月14日法律第19号)に基づく柔道整復師の養成に必要な科学的知識・技能の教授 (2)スポーツトレーナーの養成に必要な科学的知識・技能の教授																										
認定年月日	平成31年3月5日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	2970時間	1680時間	270時間	180時間	0時間	840時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
90人	88人	0人	6人	19人	25人																						
学期制度	■前期:4月1日~9月30日 ■後期:10月1日~3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 前期・後期に中間試験と期末試験を実施。 60点以上を合格とする。																							
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月上旬~8月下旬 ■冬季:12月下旬~1月上旬 ■学年末:3月上旬~4月上旬		卒業・進級条件	・履修時間を満たしている。 ・各科目の成績評価が全て合格であること。 ・当該年度までの学費及び受験料がすべて納入されていること。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談 保護者面談 スクールカウンセラーによる面談 ハラスメント対応組織の運営		課外活動	■課外活動の種類 解剖見学実習、スポーツトレーナー活動、スポーツ救護活動、特別講義(企業関係者講演等)、資格取得セミナー ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和3年度卒業生) 整骨院・接骨院、鍼灸接骨院 ■就職指導内容 2年生3年生全員に対する就職説明会の開催(年2回開催)。 企業より送られてきた採用情報の掲示。個別面談による就職相談 ■卒業生数 21 人 ■就職希望者数 15 人 ■就職者数 15 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 71.42857143 % ■その他 ・国家試験不合格者:1人 ・国家試験未受験者:2人 ・進学者:3人 (令和3年度卒業者に関する 令和4年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復師</td> <td>②</td> <td>18人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	柔道整復師	②	18人	17人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
柔道整復師	②	18人	17人																								
中途退学の現状	■中途退学者 2名 令和3年4月1日時点において、在学者81名(令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者79名(令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学業不振。進路変更。体調不良。 ■中退防止・中退者支援のための取組 学習意欲を高めるためのカリキュラム変更(実技系科目を増やして職業意識を高める) 担任等による個別相談。 業界関係者による特別講演等で将来像に希望を持たせる取り組みを行う。スクールカウンセラーによる面談。		■中退率 3%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	https://www.suzuki.ac.jp/																										

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程編成委員を通して出た意見・要望等に対して必要な限りその年度の授業に反映し、適宜カリキュラムの見直しを行っていく。
- ・授業外で企業と連携した特別講義を実施するなど、常に新しい知識と技術が習得の時間の確保、必要とされる人材育成を行える時間を確保する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会で出された意見は、カリキュラム・シラバス検討会で審議され、最終的に副校長及び校長の許可を経て決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年6月1日現在
令和3年度

名前	所属	任期	種別
鈴木 啓之	専門学校中央医療健康大学校 学校長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	
山口 智一	専門学校中央医療健康大学校 スポーツ柔整学科・柔整健康学科 学科長	令和3年4月1日～令和4年3月31日	
齋藤 佑介	専門学校中央医療健康大学校 スポーツ柔整学科・k柔整健康学科 専任教員	令和3年4月1日～令和4年3月31日	
小澤 喜一	公益社団法人 静岡県柔道整復師会	令和3年4月1日～令和4年3月31日	①
岡本 猛	株式会社 Cocoro	令和3年4月1日～令和4年3月31日	③
望月 亘	株式会社ハートメディカル	令和3年4月1日～令和4年3月31日	③

令和4年度

名前	所属	任期	種別
鈴木 啓之	専門学校中央医療健康大学校 学校長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
山口 智一	専門学校中央医療健康大学校 スポーツ柔整学科・柔整健康学科 学科長	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
齋藤 佑介	専門学校中央医療健康大学校 スポーツ柔整学科・柔整健康学科 専任教員	令和4年4月1日～令和5年3月31日	
小澤 喜一	公益社団法人 静岡県柔道整復師会	令和4年4月1日～令和5年3月31日	①
岡本 猛	株式会社 Cocoro	令和4年4月1日～令和5年3月31日	③
望月 亘	株式会社ハートメディカル	令和4年4月1日～令和5年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年9月10日 13:00～15:00

第2回 令和4年3月14日 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

実技授業の中で施術のゴール設定の話を取り入れた方が良いという意見がでたので、実技担当教員に施術のゴール設定の話をするようにし、学生に意識付けを行うよう指導した。また嘉納治五郎の正史を取り入れた方が良いという意見があったので医学史の講義の中で取り入れた。

また臨床実習の実習指導記録の作成をもう少し緩和してほしいとの意見があったので、令和4年度の検討課題としていきたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

①現在求められている企業の高いニーズに応えられるようにしていくための知識・技術・資格の取得、②校内では指導することや学生自身が経験することが難しい、専門分野に関する知識・技能・技術の習得、③企業のニーズ、業界ビジョンの教授の3つを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

・授業内容

- ①臨床現場に必要な柔道整復師として身だしなみを身に付け、付帯業務等を知ることができる。
- ②臨床現場を通して柔道整復師に必要な専門知識、技術を学ぶ。
- ③臨床現場で実際の患者さんと接することでコミュニケーション能力を身に付ける。
- ④臨床現場を通して学生の将来の進路に役立てていく。

・学修成果の評価

担当責任者から出題されたレポート・課題提出物の内容、出席率・実習時の態度等を考慮して総合的に評価を行う

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ・Ⅱ	臨床見学を通して、どのように振る舞うべきかを自ら考え、自覚を持って取り組んでもらいたい。まずは常識的な言葉遣いと適切な行動を身に付け、最低限のマナーを習得する。また臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、後日発表をすることで、自分の経験を的確に表現できるようにする。	株式会社ハートメディカル
臨床実習Ⅰ・Ⅱ	臨床見学を通して、どのように振る舞うべきかを自ら考え、自覚を持って取り組んでもらいたい。まずは常識的な言葉遣いと適切な行動を身に付け、最低限のマナーを習得する。また臨床で経験した事柄をレポートにまとめ、後日発表をすることで、自分の経験を的確に表現できるようにする。	ひらの鍼灸接骨院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 学内の業務に従事していることでは得ることができない、知識・技術・技能の更新を目的に実施。 専門学校中央医療健康大学校、教職員の研修実施要綱に基づき、専攻分野における実務研修、指導力の習得・向上のための研修を個々の職務経験と勤務年数に応じて学科長及び副校長、校長と協議し計画的に受講する。
(2) 研修等の実績
① 専攻分野における実務に関する研修等
研修名「JSBM第36回西日本支部学術集会」(連携企業等:一般社団法人 日本骨軟組織学会) 期間:令和3年7月11日(日) 対象:常勤教職員(2名) 内容:超音波診断装置における基礎知識・実技の習得をしていく。
研修名「超音波ハンズオンセミナー」(連携企業等:一般社団法人 日本骨軟組織学会) 期間:令和3年7月11日(日) 対象:常勤教職員(1名) 内容:超音波診断装置における基礎知識・実技の習得をしていく。
研修名「第16回トレーニング指導者研修・交流会」(連携企業等:特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会) 期間:令和4年1月30日(日) 対象:常勤教職員(1名) 内容:トレーニングプログラム作成方法、女性アスリートのコンディショニング、パラアスリートのトレーニングサポート、オリンピック選手のトレーニングサポート、アスリートの栄養サポートについて学ぶ。
研修名「第10回 日本トレーニング指導者学会大会」(連携企業等:特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会) 期間:令和4年2月12日(土) 対象:常勤教職員(1名) 内容:チームマネジメント、最新のトレーニング方法、トレーニングサポート、トレーニング科学について学ぶ。
② 指導力の修得・向上のための研修等
研修名「ICT活用研修」(連携企業等:一般社団法人 全国専門学校教育研究会) 期間:令和3年8月4日(水) 対象:常勤教職員(1名) 内容:ICTによる動画作成技術を学ぶ。
研修名「第63回公益社団法人 全国柔道整復学校教育令和3年度教員研修会」(連携企業等:公益社団法人 全国柔道整復学校協会) 期間:令和3年11月27日(土)～令和3年11月28日(日) 対象:常勤教職員(4名) 内容:2日間の研修で、基調講演、柔道整復の研究のポスター発表、分科会等を行い最新医療知識や教育方法を学ぶ。
(3) 研修等の計画
① 専攻分野における実務に関する研修等
研修名「第38回西日本支部学術集会」(連携企業等:一般社団法人 日本骨軟組織学会) 期間:令和5年1月15日(日) 対象:常勤教職員(2名) 内容:超音波診断装置における基礎知識・実技の習得をしていく。
研修名「第43回東日本支部学術集会」(連携企業等:一般社団法人 日本骨軟組織学会) 期間:令和5年2月26日(日) 対象:常勤教職員(1名) 内容:超音波診断装置における基礎知識・実技の習得をしていく。
研修名「静岡接骨学会」(連携企業等:公益社団法人 静岡県柔道整復師会) 期間:令和4年9月25日(日) 対象:常勤教職員(2名) 内容:保険研修会、会員による研究発表、柔道整復師として必要な知識を学び、また各会員による研究発表での症例報告や研究発表を行うことで新しい知識を学習する。
研修名「日整東海学術大会愛知大会」(連携企業等:公益社団法人 岐阜県柔道整復師会) 期間:令和4年10月22日(土)～10月23日(日) 対象:常勤教職員(2名) 内容:東海4県の各公益社団法人柔道整復師会に所属している柔道整復師が集まり、特別講演、シンポジウム、症例発表、研究発表を行う。
研修名「コアコンシンポジウム2022」(連携企業等:一般財団法人 日本コアコンディショニング協会) 期間:令和3年11月14日(日) 対象:常勤教職員(1名) 内容:スポーツトレーナーや医療関係者、一般の方まで参加し、基調講演、ゲスト講演、症例報告、マスタートレーナーのプレゼンテーション、研究発表、協会活動報告を行いトレーナーとしての知識や健康に対する知識を学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「公益社団法人 全国柔道整復学校協会教員研修会」(連携企業等:公益社団法人全国柔道整復学校協会)
期間:令和3年9月18日(日)～令和3年9月19日(月) 対象:常勤教職員(5名)
内容:未定、ポスターセッション

研修名「日本トレーニング指導者協会主催研修会」(連携企業等:特定非営利活動法人 日本トレーニング指導者協会)
期間:未定 対象:常勤教職員(1名)
内容:各トレーニング理論、トレーニング指導者としての役割・資質・倫理の講義を学び主にトレーニング指導の知識・技能を学ぶ。

(別途、以下の資料を提出)

- * 研修等に係る諸規程
- * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)
- * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・自己評価に対する評価を基本とし、改善方策・評価項目・重点目標、学校運営の改善取組み等について言及されているか。
- ・自己評価の評価結果に対して、評価項目ごと学校関係者評価結果が付けられた相対的な記載となっているか。
- ・学校関係者評価委員会が開催され、主体的・能動的な評価活動が行われているか。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生生活支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

委員から学生の進路評価が低いという指摘を受けたので担任が面談を行う前に目的意識を持たせるためのアンケートを行い、1年生のうちから進路についての興味を持たせられるような指導を行っている。
また国家試験不合格者の対応を今以上にいったほうが良いのではないかと指摘を受けたので、オンラインを活用し今まで以上にサポートできる環境を整えた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年6月1日現在
令和3年度

名前	所属	任期	種別
井谷 陽介	立志道接骨院	令和3年4月1日～令和4年3月31日	企業関係者
石橋 俊樹	株式会社 ハートメディカル (専門学校中央医療健康大学校 卒業生)	令和3年4月1日～令和4年3月31日	卒業生
小柳津 里佳	専門学校中央医療健康大学校 学生保護者	令和3年4月1日～令和4年3月31日	保護者

令和4年度

名前	所属	任期	種別
井谷 陽介	立志道接骨院	令和4年4月1日～令和5年3月31日	企業関係者
石橋 俊樹	株式会社 ハートメディカル (専門学校中央医療健康大学校 卒業生)	令和4年4月1日～令和5年3月31日	卒業生
小柳津 里佳	専門学校中央医療健康大学校 学生保護者	令和4年4月1日～令和5年3月31日	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://www.suzuki.ac.jp/>

公表時期: 令和4年6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

・本校関係者の理解を深めるとともに、連携や協力を推進するために教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名・所在地・連絡先
(2) 各学科等の教育	理念・教育方針・カリキュラム
(3) 教職員	教職員一覧(氏名・役職) (事業計画書内)
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職実績・キャリア教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	事業計画書(教育目標・教育計画含む)・事業実績書
(6) 学生の生活支援	学生支援の取り組み状況(事業計画内)
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項
(8) 学校の財務	貸借対照表・収支計算書
(9) 学校評価	学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<https://www.suzuki.ac.jp/>

授業科目等の概要

(医療専門課程スポーツ柔整学科(午前部)) 令和4年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			人文科学	現代社会を生きる上で必要とされる国語力、コミュニケーション力について学ぶ。	1通	60	4	○			○				○
2	○			社会科学	社会学の視点から社会の中で生きる人間を総合的に捉え、人間と社会の関連性を学ぶ。さらに、社会学の立場から医療・福祉・教育についての知識と理解を深める。	1通	60	4	○			○				○
3	○			保健体育	保健体育では、少人数でのラケットスポーツやチームスポーツ種目を実施し、正確なルールや各スポーツにおける身体の動かし方を学習する。	2通	60	2			○	○				○
4	○			外国語	グローバル化の進展に対応できるコミュニケーション力を学ぶ。	1通	60	4	○			○				○
5	○			解剖学	初めて解剖学を学ぶ学生のために医学の共通言語である解剖学を全ての内容を教授する。	1通	60	4	○			○				○
6	○			解剖運動器系	柔道整復師としての必要な運動器の構造を理解する。	1通	60	4	○			○		○		
7	○			生理学	初めて生理学を学ぶ学生のために人体の機能の全内容を教授する。	1通	60	4	○			○				○
8	○			高齢者・競技者の生理学	運動に不可欠な骨格筋や、それに必要なエネルギー供給系やそれを支える呼吸循環系、内分泌系などについて詳しく学ぶ。また加齢的な変化による生理学的な違いについても学ぶ。	2通	60	4	○			○				○

(医療専門課程スポーツ柔整学科(午前部)) 令和4年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
9	○			病理概論	病理学は疾病の本態を究明する学問であり、基礎医学から臨床医学へ橋渡しの役目になっている。本講義は疾病の本態を理解するために、その成立や理論を習得し、ひいては問題発見および解決能力を身につける。	2前	45	3	○			○			○	
10	○			一般臨床概論	一般臨床医学の基礎となる総論的な事項とともに、臨床の場に置いて遭遇することが多い代表的な疾患を学ぶ。	2通	60	4	○			○			○	
11	○			外科概論	外科学の基礎となる総論的な事項とともに、臨床の場に置いて遭遇することが多い代表的な外科疾患を学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
12	○			整形外科概論	整形外科の分野は接骨分野と共通する部分が多く、国家試験にも出題される重要な科目であるため、学生は講義内容を理解し、習得していかなければならない。	2前	30	2	○			○			○	
13	○			鑑別診断	損傷や症状から鑑別疾患を考え、臨床の場において様々な可能性を考えながら適切な治療ができる柔道整復師となれるように、医学的知識を身に付ける。	3前	30	2	○			○			○	
14	○			医学史 (医療倫理・ 職業倫理含 む)	医学の歴史・倫理観を学び、今日の医療がどのように発展してきたのかを学ぶことを目的とする。	1通	60	4	○			○			○	
15	○			関係法規	現在の日本国は法的国家である。つまりは知る知らないに関わらず行動には全て法で規制した中で行われる。本授業では法律についての基礎から憲法、あるいは柔道整復師法やそれに付随する医療関係法までを知り社会における法と呼ばれるものについての理解を深める。	3前	30	2	○			○			○	
16	○			柔道と体力増進	柔道の歴史を学び、実技を通して柔道の中でも主に投げの形を行っていく。	1後	30	1			○	○				○
17	○			柔道と体力増進II	柔道の基本を学び礼法、受身、乱取り、投げの形ができるようにする。	2後	30	1			○	○				○

(医療専門課程スポーツ柔整学科(午前部)) 令和4年度

分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
18	○			柔道と体力増進Ⅲ	実技を通して柔道の中でも主に投げの形を行っていく。	3前	30	1			○	○			○
19	○			社会保障	柔道整復師は開業することが可能であることから、医療費等の社会保障制度を理解することにより、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう必要な知識を身につける。また柔道整復師に重要な療養費請求について学んでいく。	3後	15	1	○			○		○	
20	○			基礎柔道整復学Ⅰ	柔道整復の業務分野と柔道整復師としての心構えを理解する。柔道整復学の総論を学び人体における損傷の治療と管理の基本となる知識を学び損傷に対する理解を深める。	1通	60	4	○			○		○	
56	○			スポーツ栄養学	栄養学の知識、スポーツ栄養学の基礎を学び理解していく。	2前	30	2	○			○			○
57	○			公衆衛生概論	健康の概念、感染症の種類とその対策、施術所の衛生を保つ方法、健康保険の基本的な仕組みについて学ぶ。	3前	30	2	○			○		○	
58	○			リハビリ概論	高齢者の運動機能低下の原因と、それに対する機能回復・維持の方法を学ぶ。	3前	30	2	○			○		○	
合計				58 科目		2970 単位時間(162 単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則に定められた授業時間に出席していること・定期試験に全て合格していること	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。